

No.  
**16**

平成27年4月発行

# 新潟市南区 農業振興公社だより

編集・発行

公益社団法人 新潟市南区農業振興公社

〒950-1292 新潟市南区白根1235 TEL 372-5024 FAX 374-0780

HP:<http://niigata-agri.or.jp>

E-mail:[kousya-shirone@beach.ocn.ne.jp](mailto:kousya-shirone@beach.ocn.ne.jp)

## 地域で運営する農家レストランを視察 公社会員研修を実施



公社会員研修は3月6日、糸魚川市能生にある(株)銚・権現ジオの里が運営する「農家キッチンひだまり」を訪問。同社は住民の減少や農地の荒廃が進む中で、地域の活性化のために設立された会社で、11集落から60人が出資して立ち上げました。レストランでは、8割以上の地域生産物を使い、手打ちそば、笹ずし、ぜんまい・わらび等の山菜を使ったメニューを提供。地域のおかあさんたちが交代で腕を振ります。昼食のみの営業ですが、評判は上々で年間1万人が訪れます。

「温かい人だまり、皆さんのたまり場を目指して頑張っています」と副代表の日野さんが言われるだけあって、作っている人の温かさが感じられました。

## 果樹作業パート事業・資源循環事業

# 27年度はさらに取組を增強

公社では、南区から受託し、26年度から事業を開始した「果樹作業パート事業」と「資源循環事業」を、さらに内容を增強して実施します。果樹作業パート事業は新規パートの募集、説明会を既に行っており、パートを増員し園芸作業にも対応していきます。資源循環事業は堆肥散布量を大幅に増加する予定です。



公社が導入したマニアスプレッタ

### 園芸作業の請負もパート事業で試験実施

26年度の果樹作業パート事業は、利用農家29戸、果樹作業パート19人で実施しました。請け負った作業は、枝拾い、受粉、摘果、摘粒、袋かけなどで、3月中旬から7月までの利用が中心でした。8月以降は、ほとんど利用がない状況でした。パートの技術研修は4回実施。次年度は研修時間を長くするなどの対応を図り、依頼農家の要望に応えます。

また、周年のパート活用を図ってもらうため、請負作業を果樹栽培に限らず、イチゴや花木、野菜な

### 果樹作業パート事業

どの作業にも試験的に拡大します。専門技術を要しない簡単な作業であれば、可能な範囲で請け負います。ぜひ活用をご検討ください。

### 平成26年度実績

労働日数	661日
労働時間	3,580時間
請負金額	2,786千円

### 資源循環事業

資源循環事業は、白根地区での取り組みが終了しました。(有)キープクリーンに堆肥の製造と散布を委託し、14.7haに88tの豚ふん粉殻堆肥を散布しました。作業は10月1日から開始し、実質5日間程度で終了。次年度は堆肥の製造量を150t程度まで

### 堆肥散布量をさらに増加していきます

増やして対応する予定です。

一方、味方地区を中心とした堆肥散布組織AOB Aへの委託は、4月まで散布を継続するため、実績がまとまっていませんが、最新鋭のマニアスプレッタの導入によって、順調に作業が進んでいます。

## 27年度予算の概要

### 農商工連携による6次産業化を推進

平成27年度予算は、2月27日の理事会で承認されました。

基幹事業の「農用地利用対策事業」を継続実施するとともに、26年度から開始した「果樹作業パート事業」と「資源循環事業」の拡充を図ります。また、新規に「農商工連携6次産業化推進事業」を市の委託を受けて実施します。この事業は、農産物の付加価値を向上させるため、産業間の連携を図って、新しい製品やサービスを検討するものです。

農業者の皆様の期待に応えられるよう、積極的に事業を展開していきます。

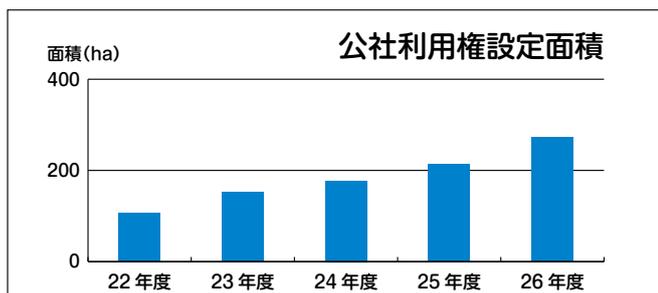
総額 85,561千円

#### 主な事業

●総合振興対策事業	600千円
・公社だよりの発行	
・ホームページの改定と更新	
・会員、役員懇談会の開催	
・特別会員等先進地研修事業	
●農用地利用対策事業	72,020千円
・農地賃貸借料	
●農業振興対策事業	1,250千円
・技術推進対策事業	
・防疫対策	
・各種研修会	
・各種部会・団体・協議会助成	
●果樹産地活性化総合対策事業	4,491千円
・樹園地情報、新規就農情報の提供	
・果樹作業パート事業	
●資源循環事業	4,200千円
・堆肥散布業務委託	
●農商工連携6次産業化推進事業	1,000千円
●公社管理事業	2,000千円

## 農地中間管理機構へ36haの利用権を設定

平成26年度の公社での利用権設定面積は271.5haで、前年度比57.8haの増加となりました。農地中間管理機構事業の開始により、減少するものと考えていましたが、これまで以上に増加する結果となりました。



一方農地中間管理機構事業への利用権設定は、借り入れ希望187件、755.3haのところ、経営転換協力金の対象となる16件、35.6haにとどまることになりました。この要因としては、①賃借料の10年間据え置き（価格変動リスク）②12月中旬の賃借料振込（土改費決済とのずれ）③機構への白紙委任④機構手数料（1%）などが考えられます。

最近では、比較的規模の大きな農家から高齢のため借り手を探してほしいといった相談が増えてきました。機構事業と公社事業を連携させて、皆様の要望に応じていきます。

## 新規就農者紹介

# 土に魅力を 感じて



### 田中 和貴さん

この春に新潟県農業大学校で研修を修了し、親元で就農された田中和貴さん（23歳 鷲巻地区）。大学は土木系の大学でしたが、家の農業を手伝っていた経験から「作物を育てる土」に魅力を感じ、在学中に農業を志しました。

農業大学校では稲作と野菜を学びましたが「当初は説明もよく理解できなかったけど、収穫後に理解したことが多かった」と話していました。

一緒に研修を受けた人は年齢や研修前の

職業も様々で、農業以外のことを聴けたのはとても参考になったそうです。また、農業大学校のOBとの交流もとても楽しかったと語ってくれました。

今の目標は稲作、トマト、ブロッコリーなどの栽培をマスターすること。新しい品目の栽培やアンテナショップでの販売を目指しています。

長身ですのでとても目立ちます。地域の皆さん応援をお願いします。

## 就農候補者と新規就農者の懇談会を開催



新潟農業・バイオ専門学校や新潟県農業大学校などの学生を対象に、新規就農者や青年農業者、農業法人への就職者などとの意見交換会を、当公社とアグリパークとの共催で9月4日にアグリパーク研修室で行いました。当日は、学生約60人と新規就農者等農業青年など8人、関係機関団体の職員などが参加し、就農への意識付けを図りました。

### 編集後記

平成26年度は、果樹作業パート事業と資源循環事業の2つの新規事業をスタートさせ、また農地中間管理機構が発足して、農地利用集積事業がどうなるのかといった期待と不安の1年でした。新規事業は多くの皆様から活用いただき、順調なスタートを切ることができました◆新年度は、農商工連携による6次産業化の事業を新たに取り組みます。既に区内で取り組まれている人も多く、そういった商品のPRや販路の拡大などにも協力できればと思っています◆私ごとですが、4月から異動となり、公社業務から離れることになりました。関わっていただいた多くの皆様のご協力に感謝します。